

学校における働き方改革について

1 取組の背景

社会の急激な変化が進む中で、子どもが予測不可能な未来社会を自立的に生きるための資質能力を育成するため、学校教育の改善・充実が求められている。一方、いじめ・不登校への対応や学校事務、地域行事の対応など、教育以外の業務も多岐にわたり、教職員は多様化・複雑化する教育ニーズと対応すべき業務に追われている。この結果、長時間勤務やメンタルの不調から教員の疲弊、ひいては教員のなり手不足につながっている。

このような中、教職員の働き方改革を推進し、心身ともに余裕をもって働ける環境整備の推進により、教職員がこどもと向き合う時間を確保する体制整備が求められている。

2 埼玉県の方針（埼玉県業務改善スタンダード）

(1) 目標

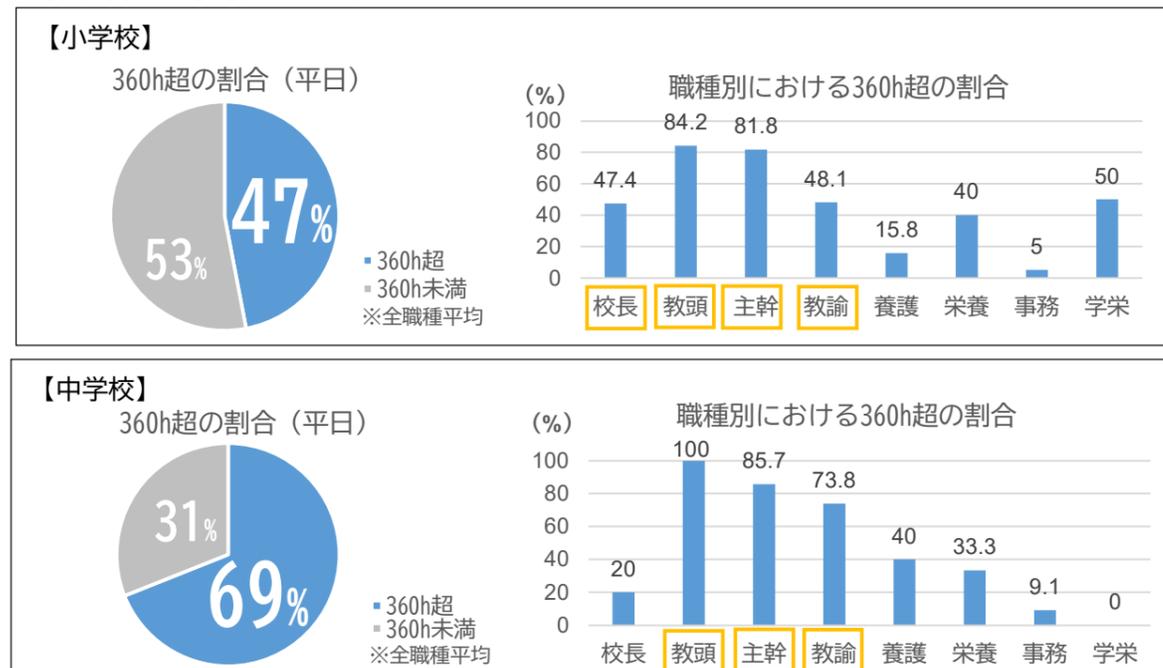
【時間外在校等時間】月 45 時間以内・年 360 時間以内の教員数割合を 100% ※R9 年度末までに
 【ウェルビーイング】「働きやすい」「働きがいがある」職場環境の確立

(2) 推奨する取組

【小中共通】	
① 日課表の見直しで教材研究・事務処理時間を確保	② 行事の精選・運営方法の工夫改善
③ 留守番電話の導入・活用	④ 学年・学級事務の負担軽減
⑤ 年間授業数を必要最小限に	⑥ 学校運営協議会で働き方改革を議題に
⑦ 完全退校時刻の設定・徹底	⑧ 長時間勤務者へ同僚・管理職の声掛け
【小学校のみ】	
・教科担任制（学年担当制）の導入	・教務や担任外と協力した担任の負担軽減
【中学校のみ】	
・部活動の運営方法の工夫改善	・ノー残業デー・ふれあいデーの徹底

3 令和 6 年度勤務状況調査結果（深谷市 29 校）

○時間外在校等時間（年間）

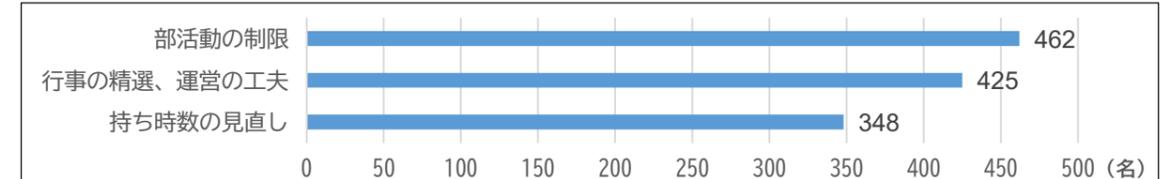


4 令和 6 年度埼玉県小・中学校働き方改革に関する実態調査結果（抽出校 124 校）

○在校等時間における教諭等の平日 1 日の従事内容及び時間（授業を除く上位 5 項目）

	1位	2位	3位	4位	5位
小	授業準備 (1:42)	学年学級経営 (0:42)	生徒指導 (0:42)	その他事務 (0:30)	成績処理 (0:26)
中	授業準備 (1:37)	学年学級経営 (1:08)	部活動 (0:49)	生徒指導 (0:33)	その他事務 (0:30)

○負担感軽減に効果があると思うもの（様々な取組のうち、3つ選択した結果の上位 3 項目）



出典：令和 6 年度埼玉県小・中学校働き方改革に関する実態調査報告書

5 市内小中学校の取組

- 学校行事
 - ・開催時間を短縮（例、運動会・体育祭）
 - ・行事そのものを削減、または統合（例、社会科見学、各種作品の展覧会）
- その他
 - ・家庭訪問の廃止、家庭確認の実施
 - ・地域行事への参加について検討

6 深谷市教育委員会の取組

- (1) 教育課程の工夫
 - 週時程
 - ・週授業時数を 29 時間から 28 時間に削減（令和 5 年度より）
- (2) 部活動
 - 3シーズン制の導入、朝練習の廃止（令和 5 年度より）
 - 休日における部活動の地域展開
 - ・実証事業で検証（実施可能団体、学校との連携、費用負担等）
 - ・拠点校方式での実施に向けて検討

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 11 年度
種目数	3 種目	5 種目	10 種目程度	拠点校方式
指導者数	12 名	29 名	未定	—

※運動種目のみ、令和 7 年度以降は未定

7 意見交換

学校の働き方改革加速化に向けた学校部活動の在り方